

開 会 の 辞

岩切成郎（鹿児島大学南方海域研究センター長）

ただいまから「熱帯と肝臓病」のテーマで、鹿児島大学南方海域研究センターの主催するシンポジウムを開会いたします。

最初に、センター長といたしまして一言ごあいさつを申し上げます。今日は大変風も強く悪い天気にもかかわらず、多数のご出席を賜りまして誠に嬉しく存じます。また、本日のパネラーをおつとめいただく志方先生と板倉先生におかれましては、それぞれ東京と長崎からご出席いただきました。あつくお礼を申し上げます。また、学内からは、農学部の小林先生と南海研センターの寺師先生にご参加いただきますのでたいへん心強く存じております。

この機会に、ごく簡単に南海研センターの研究活動につきましてお話ししたいと存じますが、ご承知のように私どものセンターは大きな3つの課題を与えられております。第一は南方海域地域における農林水産資源などの生態に関する研究分野、つぎにいわゆる一次産業を中心とする技術展開と産業化を研究する分野、第三に保健衛生を中心とする医学分野と人間および社会のありかたと発展を考える社会生活構造の研究分野というような、この3つの研究課題を総合的に発展させようとするのが、私どもの目的でございます。

すでに、何回かの現地調査をふまえて、いくつかのシンポジウムを開催してまいりましたが、保健衛生にかかわる医学部門のシンポジウムは今回がはじめてでございまして、これを機会にさらにセンターの研究を推進してまいりたいと存じます。

私のように医学分野につきましてはまったく素人でも、東南アジアやオセアニアなどの熱帯地域をフィールドとして研究している者にとりましては、この種の熱帯の疾病や、それに関する保健衛生の実状には、非常に強い関心を持っております。こういう点でも本日のシンポジウムが大きな成果をおさめられることを期待いたしまして、ごあいさつにかえさせていただきます。

つづきまして、本日のシンポジウムの座長をつとめいただく鹿児島大学医学部第二内科学講座の橋本修治教授をご紹介申し上げます。橋本先生は最近まで医学部附属病院の病院長をおつとめになっておられまして、たいへんご多忙なところを、本日は座長の大役をおひきうけいただき、列席者の皆を代表してお礼を申し上げます。

それでは、研究発表の部に移らせていただきます。